

# 口腔ケアの連携で廃用を抑えたい

今回、伊藤隼也は愛知県豊明市の藤田医科大学病院へ。同院が2017年に設立した今注目される地域医療連携推進法人「尾三会」の取り組みについて取材しました。



転院した患者さんの口腔ケアの見本を示しつつ、患者情報を伝える田村看護師

## 「地域医療連携」制度第1号 医療圏を越えた範囲で連携開始

**伊藤** 以前から厚生労働省は医療連携に力を入れ始めていますけど、その中核を担うのが、連携業務を行う地域医療連携法人です。藤田医科大学が運営する尾三会は、その第1号だとうかがっています。

**安藤（藤田医科大学病院事務部企画広報室室長）** 2016年から厚労省と打ち合わせをしながら準備を進め、17年3月に尾三会を立ち上げました。法人登記したのは翌4月です。

**伊藤** 参加施設は現時点で32施設、広い範囲を網羅していますね。

**安藤** ここは豊明市なので医療圏は尾張東部ですが、当院の場合、隣の刈谷市から名古屋市緑区まで、医療圏

支援を始めました。

**伊藤** 先ほど同行取材させていただいた試みですね。患者さんの「生の」情報、ケアを担当していた看護師と、これからケアをする看護師が共有することができれば、シームレスな看護ができるです。

**真野** 今日は転院の医療機関を訪ねましたが、在宅で見るような場合は、当院の看護師が訪問看護ステーションの看護師と一緒にご自宅に伺って、情報を伝えることもあります。地域の医療の質を平準化する、その一歩を踏み出したんですね。

**伊藤** とても素晴らしい取り組みだと思いますが、見方を変えると、今までのやり方だと看護の質が十分に保できなかつたわけですね。

**真野** 訪問看護なら退院支援カンファレンスがあるので、比較的ムーズに患者さんの引き継ぎができるが、病院間では今でも地域連携パスしかなく、患者像がわからないまま転院になることが少なくありません。実際問題として、患者さんが転院しても状態が悪くなつて、また戻つてしまつことがあります。

**伊藤** それはおっしゃる通りだけど、実はその逆もあつて。地域の病院を取材すると、「大学病院に入院させると、認知症がひどくなつて帰つて

を越えた非常に広い範囲の患者さんをみています。制度では同一の医療圏で行うのが原則となっていますが、当院を中心に考えると一つの医療圏にとどめるのは難しい。そのように厚労省にお伝えし、医療圏を越えた範囲で連携することになりました。

**伊藤** 実態と乖離しているから、制度の第1号にして制度を変えてしまった。藤田医科大学らしいですね(笑)。患者データを元に、「これだけの地域から受診されている」と説明したら、厚労省も愛知県も納得され、立ち上げることができました。

**伊藤** 地域包括ケアシステムは、今はどの地域もありますが、現場レベルでつながっているかというと、必ずしもそうではないようです。

**真野（看護部長）** まさにそこなん



藤田医科大学病院から車で10分ほどの相生山病院へ。転院の様子（左）



田村 茂さん

藤田医科大学病院回復期リハビリテーション科  
看護主任  
摂食・嚥下障害看護認定看護師

### PROFILE

2002年3月、藤田保健衛生大学（現・藤田医科大学）衛生学部衛生看護学科卒。藤田医科大学大学院保健学研究科看護教育学分野修士課程履修中。2002年4月、藤田医科大学病院看護部に就職、現在に至る。2010年、摂食・嚥下障害看護認定看護師取得、2011年、摂食嚥下リハビリテーション学会認定士取得、2017年、NST専門療法士取得。

